



2025年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年4月11日

上場会社名 Sansan株式会社 上場取引所 東
コード番号 4443 URL https://jp.corp-sansan.com
代表者 (役職名) 代表取締役/CEO (氏名) 寺田 親弘
問合せ先責任者 (役職名) 取締役/執行役員/CFO (氏名) 橋本 宗之 TEL 03 (6758) 0033
配当支払開始予定日 -
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年5月期第3四半期の連結業績（2024年6月1日～2025年2月28日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		調整後営業利益 (注)		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年5月期第3四半期	31,137	28.5	2,634	136.5	1,890	156.1	1,854	173.6	1,697	243.0
2024年5月期第3四半期	24,234	33.3	1,113	46.5	738	36.9	677	35.2	494	△33.0

(注) 包括利益 2025年5月期第3四半期 1,663百万円 (261.2%) 2024年5月期第3四半期 460百万円 (△44.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年5月期第3四半期	13.47	13.21
2024年5月期第3四半期	3.94	3.88

(注) 調整後営業利益：営業利益 + 株式報酬関連費用 + 企業結合に伴い生じた費用（のれん償却額及び無形固定資産の償却費）

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年5月期第3四半期	39,885	17,242	40.4
2024年5月期	37,592	14,772	37.3

(参考) 自己資本 2025年5月期第3四半期 16,101百万円 2024年5月期 14,005百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年5月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2025年5月期	-	0.00	-	-	-
2025年5月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年5月期の連結業績予想（2024年6月1日～2025年5月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		調整後営業利益	
	百万円	%	百万円	%
通期	43,026 ～44,042	27.0 ～30.0	3,012 ～4,404	76.2 ～157.6

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 営業損益以下の段階損益については、当社株価水準によって大きく変動する可能性のある株式報酬関連費用や、一部の営業外損益等の合理的な見積もりが困難であることから、具体的な予想数値の開示は行っていません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料10ページ「2.四半期連結財務諸表及び主な注記 (3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有

② ①以外の会計方針の変更：有

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

（注）詳細は、添付資料10ページ「2.四半期連結財務諸表及び主な注記 (3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更等)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2025年5月期3Q	126,402,928株	2024年5月期	125,835,416株
2025年5月期3Q	142,571株	2024年5月期	871株
2025年5月期3Q	126,012,134株	2024年5月期3Q	125,554,735株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更等)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等の注記)	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	13
(収益認識関係)	13
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「出会いからイノベーションを生み出す」というミッションの下、「ビジネスインフラになる」というビジョンを掲げ、クラウドソフトウェアにテクノロジーと人力によってアナログ情報をデジタル化する仕組みを組み合わせた手法を軸に、人や企業との出会いをビジネスチャンスにつなげる、働き方を変えるDXサービスを提供しています。

具体的には、企業の営業活動や請求書業務、契約書業務等に対して、デジタルトランスフォーメーション(DX)を促進するサービスを展開しており、DXへの意識改革や働き方の変化、SaaSビジネスへの関心の高まり等によって、DX市場は2030年度に8兆350億円(2023年度見込比4兆153億円増)(注1)、国内SaaS市場は2027年度に2兆990億円(2023年度見込比6,862億円増)(注2)の規模に達すると予想されています。当社が提供する営業DXサービス「Sansan」は、法人向け名刺管理サービス市場においてNo.1の売上高シェア(84.1%)(注3)を占めており、同市場は当社サービスの成長等につれて、2013年から2022年にかけて約18倍に拡大しています。また、当社が提供するインボイス管理サービス「Bill One」は、クラウド請求書受領サービス市場においてNo.1の売上高シェア(47.0%)(注4)を獲得しており、2023年度の同市場は、前年同期と比べて133.1%拡大しています。

当第3四半期連結累計期間の経営成績は以下の通りです。

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比
売上高	24,234	31,137	+28.5%
売上総利益	20,649	27,001	+30.8%
調整後営業利益	1,113	2,634	+136.5%
経常利益	677	1,854	+173.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益(注5)	494	1,697	+243.0%

当第3四半期連結累計期間においては、堅調な受注状況を背景に、さらなる売上高成長の実現に向け、「Sansan」及び「Bill One」の営業体制の強化等に取り組みました。また、Eight事業においては、収益性に焦点を当てた事業方針の下、さらなる収益拡大に取り組みました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は前年同期比28.5%増、売上総利益は前年同期比30.8%増、売上総利益率は86.7%(前年同期比1.5ポイント増)となり、堅調な実績となりました。また、売上高の成長及び売上高広告宣伝費率の低下等により、調整後営業利益は前年同期比136.5%の増益、経常利益は前年同期比173.6%の増益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、第2四半期に416百万円の投資有価証券売却益を計上したことにより、前年同期比243.0%の増益となりました。

- (注)
- 「2024 デジタルトランスフォーメーション市場の将来展望 市場編/企業編」富士キメラ総研
 - 「ソフトウェアビジネス新市場 2023年版」富士キメラ総研
 - 「営業支援DXにおける名刺管理サービスの最新動向2025(2025年1月 シード・プランニング調査)」
 - デロイト トーマツ ミック経済研究所「高成長が続くクラウド請求書受領サービス市場」(ミックITリポート2024年12月号)
 - 第1四半期より、四半期決算における税金費用の計算方法を変更したことに伴い、前第3四半期連結累計期間の実績にも遡及して反映しています。

セグメント別の業績は以下の通りです。

なお、第1四半期より、これまで各セグメントに配賦していなかった全社費用を一定の方針に基づき配賦しており、前第3四半期連結累計期間の実績にも遡及して反映しています。

①Sansan／Bill One事業

当事業セグメントには、営業DXサービス「Sansan」やインボイス管理サービス「Bill One」等のサービスが属しています。

当第3四半期連結累計期間におけるSansan／Bill One事業の成績は以下の通りです。

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比
売上高(注6)	21,669	27,412	+26.5%
「Sansan」	16,758	19,532	+16.6%
「Sansan」ストック	15,846	18,463	+16.5%
「Sansan」その他	911	1,068	+17.2%
「Bill One」	4,269	7,017	+64.4%
その他	641	862	+34.5%
調整後営業利益	1,758	2,677	+52.3%
「Sansan」			
契約件数	9,474件	10,463件	+10.4%
契約当たり月次ストック売上高	193千円	207千円	+7.3%
直近12か月平均月次解約率(注7)	0.44%	0.41%	△0.03pt
「Bill One」			
MRR(注8)	570	845	+48.2%
有料契約件数	2,607件	3,619件	+38.8%
有料契約当たり月次ストック売上高	218千円	233千円	+6.9%
直近12か月平均月次解約率(注7)	0.33%	0.39%	+0.06pt

- (注) 6. 外部顧客への売上高及びセグメント間の内部売上高または振替高の合計値
7. 各サービスの既存契約のMRRに占める、解約に伴い減少したMRRの割合
8. Monthly Recurring Revenue(月次固定収入)

a.「Sansan」

主に人材育成による営業体制の強化に取り組んだこと等により、契約件数は前年同期比10.4%増、契約当たり月次ストック売上高は前年同期比7.3%増となりました。また、直近12か月平均月次解約率は0.41%(前年同期比0.03ポイント減)となり、1%未満の低水準を維持しました。

この結果、「Sansan」売上高は前年同期比16.6%増、うち、固定収入であるストック売上高は前年同期比16.5%増、その他売上高は前年同期比17.2%増となりました。

b.「Bill One」

人材の採用や育成を中心とした営業体制の強化に取り組んだ結果、有料契約件数は前年同期比38.8%増、有料契約当たり月次ストック売上高は前年同期比6.9%増となりました。また、直近12か月平均月次解約率は0.39%(前年同期比0.06ポイント増)となり、1%未満の低水準を維持しました。

この結果、「Bill One」の2025年2月におけるARR(注9)は10,145百万円となり、売上高は前年同期比64.4%増となりました。

- (注) 9. Annual Recurring Revenue(年間固定収入)

c. その他

既存サービスで培った強みや知見、ノウハウ等を活かして、契約データベース「Contract One」の営業体制の強化に注力したほか、連結子会社であるクリエイティブサーベイ株式会社において、「Ask One」の販売強化等に取り組みました。この結果、その他売上高は前年同期比34.5%増となりました。

以上の結果、Sansan/ Bill One事業の売上高は前年同期比26.5%増、調整後営業利益は前年同期比52.3%増となりました。

②Eight事業

当事業セグメントには、名刺アプリ「Eight」やイベント書き起こしサービス「logmi」シリーズが属しています。

当第3四半期連結累計期間におけるEight事業の成績は以下の通りです。

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比
売上高(注10)	2,280	3,460	+51.8%
BtoCサービス	255	296	+16.3%
BtoBサービス	2,025	3,163	+56.2%
調整後営業利益	△582	39	-
「Eight」			
「Eight」ユーザー数(注11)	352万人	400万人	+48万人
「Eight Team」契約件数	4,397件	5,236件	+19.1%

(注) 10. 外部顧客への売上高及びセグメント間の内部売上高または振替高の合計値

11. アプリをダウンロード後、自身の名刺をプロフィールに登録した認証ユーザー数

a. BtoCサービス

デジタル名刺交換等の機能拡充により、「Eight」ユーザー数は前年同期比48万人増の400万人となり、BtoCサービス売上高は前年同期比16.3%増となりました。

b. BtoBサービス

第3四半期に複数のビジネスイベントを開催したことや、各種サービスのマネタイズ強化に継続して取り組んだ結果、BtoBサービス売上高は前年同期比56.2%増となりました。また、名刺管理サービス「Eight Team」においては、契約件数が順調に増加し、前年同期比19.1%増となりました。

なお、2024年9月に連結子会社ログミー株式会社が吸収合併したかえでIRアドバイザー株式会社の業績が、第1四半期より寄与しています。

以上の結果、Eight事業の売上高は前年同期比51.8%増、調整後営業利益は39百万円(前年同期は582百万円の損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(単位:百万円)

	前連結会計年度	当第3四半期 連結累計期間	前連結 会計年度末比
資産合計	37,592	39,885	+2,293
負債合計	22,819	22,642	△176
純資産合計	14,772	17,242	+2,470
負債純資産合計	37,592	39,885	+2,293

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産額は39,885百万円となり、前連結会計年度末に比べて2,293百万円増加しました。これは主に前払費用の550百万円増加、その他(流動資産)の1,217百万円増加、有形固定資産の2,120百万円増加及びのれんの108百万円増加、現金及び預金の942百万円減少、売掛金の223百万円減少、敷金の510百万円減少によるものです。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は22,642百万円となり、前連結会計年度末に比べ176百万円減少しました。これは主に買掛金の188百万円減少、未払金の264百万円減少、未払消費税等の197百万円減少、賞与引当金の321百万円減少及び長期借入金の686百万円減少、その他(流動負債)の1,279百万円増加及びその他(固定負債)の202百万円増加によるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産額は17,242百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,470百万円増加しました。これは、ストックオプションの行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ355百万円増加、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の1,697百万円増加及び新株予約権の395百万円増加、自己株式の299百万円増加によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年5月期の連結業績予想については、2024年7月11日に公表した内容から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,874	23,932
売掛金	1,229	1,006
前払費用	884	1,435
その他	715	1,933
貸倒引当金	△34	△9
流動資産合計	27,671	28,298
固定資産		
有形固定資産	520	2,641
無形固定資産		
ソフトウェア	691	709
のれん	919	1,027
その他	0	0
無形固定資産合計	1,610	1,737
投資その他の資産		
投資有価証券	3,799	3,711
敷金	2,528	2,018
繰延税金資産	950	957
その他	511	522
投資その他の資産合計	7,790	7,208
固定資産合計	9,920	11,586
資産合計	37,592	39,885

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	637	449
1年内返済予定の長期借入金	930	915
未払金	1,701	1,436
未払法人税等	315	391
未払消費税等	676	479
前受金	13,660	13,593
賞与引当金	846	525
その他	235	1,514
流動負債合計	19,004	19,305
固定負債		
長期借入金	3,549	2,862
退職給付に係る負債	53	59
役員退職慰労引当金	58	58
繰延税金負債	1	1
その他	152	355
固定負債合計	3,815	3,337
負債合計	22,819	22,642
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,774	7,130
資本剰余金	4,371	4,726
利益剰余金	2,648	4,345
自己株式	△2	△302
株主資本合計	13,792	15,900
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	134	123
為替換算調整勘定	79	77
その他の包括利益累計額合計	213	201
新株予約権	638	1,033
非支配株主持分	128	107
純資産合計	14,772	17,242
負債純資産合計	37,592	39,885

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年6月1日 至2024年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年6月1日 至2025年2月28日)
売上高	24,234	31,137
売上原価	3,585	4,135
売上総利益	20,649	27,001
販売費及び一般管理費	19,911	25,111
営業利益	738	1,890
営業外収益		
受取利息及び配当金	3	20
為替差益	-	3
助成金収入	15	5
保険解約返戻金	12	-
その他	5	15
営業外収益合計	36	45
営業外費用		
支払利息	11	19
為替差損	19	-
支払手数料	2	4
投資事業組合運用損	22	26
賃貸借契約解約違約金損失	19	-
その他	21	32
営業外費用合計	97	82
経常利益	677	1,854
特別利益		
新株予約権戻入益	2	36
投資有価証券売却益	36	418
特別利益合計	39	455
特別損失		
固定資産除却損	6	22
投資有価証券売却損	13	-
本社移転費用	-	211
特別損失合計	19	233
税金等調整前四半期純利益	696	2,076
法人税等	235	400
四半期純利益	461	1,676
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△33	△21
親会社株主に帰属する四半期純利益	494	1,697

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年6月1日 至2024年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年6月1日 至2025年2月28日)
四半期純利益	461	1,676
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△20	△10
為替換算調整勘定	19	△1
その他の包括利益合計	△1	△12
四半期包括利益	460	1,663
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	493	1,685
非支配株主に係る四半期包括利益	△33	△21

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(税金費用の計算方法の変更)

従来、税金費用については原則的な方法により計算をしていましたが、四半期決算の対応を迅速かつ効率的に行うため、第1四半期連結会計期間より連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法に変更しています。

この変更に伴い、四半期連結損益計算書の勘定科目について、従来の「法人税、住民税及び事業税」並びに「法人税等調整額」と内訳を表示した上で「法人税等合計」として表示していた方法から、「法人税等」として一括表示する方法に変更しています。なお、当該会計方針の変更に関して遡及適用を行い、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書における法人税等は遡及適用後の金額となっています。この結果、遡及適用を行う前と比べ、前第3四半期連結累計期間の法人税等が45百万円増加し、四半期純利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益が同額減少しています。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当社及び一部の連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しています。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年6月1日 至 2024年2月29日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計
	Sansan/Bill One事業	Eight事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	21,664	2,275	23,939	294	24,234
セグメント間の内部売上高 または振替高	5	4	10	84	95
計	21,669	2,280	23,950	379	24,329
セグメント利益または損失 (△) (注) 2	1,757	△582	1,175	△61	1,113

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、子会社の事業を含んでいます。

2. セグメント利益または損失(△)は、営業利益または損失(△)に株式報酬費用及び企業結合に伴い生じた費用(のれん償却額及び無形固定資産の償却費)を加えた調整後営業利益または損失(△)にて表示しています。

(単位:百万円)

	Sansan/Bill One事業	Eight事業	その他	四半期連結 損益計算書 計上額
セグメント利益または損失 (△)	1,757	△582	△61	1,113
株式報酬費用	248	43	-	292
のれん償却額及び無形固 定資産の償却費	38	15	29	83
営業利益または損失 (△)	1,470	△641	△91	738

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「その他」セグメントにおいて、当第3四半期連結累計期間に株式会社言語理解研究所の株式を取得し、同社を連結の範囲に含めています。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては299百万円です。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2024年6月1日 至 2025年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計
	Sansan/Bill One事業	Eight事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	27,402	3,450	30,853	284	31,137
セグメント間の内部売上高 または振替高	9	9	19	80	99
計	27,412	3,460	30,872	364	31,237
セグメント利益または損失 (△) (注) 2	2,677	39	2,717	△83	2,634

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、子会社の事業を含んでいます。

2. セグメント利益または損失(△)は、営業利益または損失(△)に株式報酬費用及び企業結合に伴い生じた費用(のれん償却額及び無形固定資産の償却費)を加えた調整後営業利益または損失(△)にて表示しています。

(単位:百万円)

	Sansan/Bill One事業	Eight事業	その他	四半期連結 損益計算書 計上額
セグメント利益または損失 (△)	2,677	39	△83	2,634
株式報酬費用	537	107	-	644
のれん償却額及び無形固 定資産の償却費	38	30	29	98
営業利益または損失 (△)	2,101	△98	△112	1,890

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「Eight事業」セグメントにおいて、当第3四半期連結累計期間にかえてIRアドバイザー株式会社(現ログミー株式会社)の株式を取得し、同社を連結の範囲に含めています。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては191百万円です。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、報告セグメントに帰属しない一般管理費等は全社費用として調整額に含めて計上し、各報告セグメントには配分していませんでしたが、各報告セグメントのより適正な業績評価のため、第1四半期連結累計期間より、全社費用を各報告セグメントに合理的な基準に基づき配分しています。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメント利益の算定方法に基づき作成したものを開示しています。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれん償却額は、次の通りです。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年6月1日 至 2024年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2025年2月28日)
減価償却費	640百万円	716百万円
のれん償却額	83百万円	98百万円

(収益認識関係)

当社グループの売上高は、顧客との契約から生じる収益であり、当社グループの報告セグメントを取引形態別に分解した内訳は、以下の通りです。

(単位：百万円)

セグメント区分	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年6月1日 至 2024年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2025年2月28日)
Sansan/Bill One事業		
Sansan(ストック)	15,845	18,461
Sansan(その他)	911	1,068
Bill One	4,268	7,015
その他	638	856
Eight事業		
BtoCサービス	255	296
BtoBサービス	2,020	3,153
その他事業	294	284
顧客との契約から生じる収益	24,234	31,137
外部顧客への売上高	24,234	31,137

(重要な後発事象)

該当事項はありません。